

3月



心  
園だより  
体 智

希望が丘保育園 28-0331

日ごとに寒さも和らぎ、春の陽気を感じられる頃となりました。進学進級まであと1か月。春を心待ちにしている子どもたち。1つお兄さんお姉さんになる喜びを、それぞれに感じているようです。

さて、この一年も玄関で皆さんを出迎える中で、季節の風や虫や鳥の声、空の色など、季節の移ろいとともに玄関をくぐる子ども達の様子にも成長を感じる日々でした。少しご紹介します。

春の頃は涙が出ていたお友達もすっかり涙が出なくなりました。お家の方の手をしっかり繋いで嬉しそうに歩いてくるお友達がいます。力強くグータッチや握手をしてくれます。雨の日に傘を差して歩いてきて玄関で自ら傘を閉じようとする子がいます。職員を見つけて笑顔で「おはようございます」の挨拶をしてくれるお友達が増えました。少し元気の無かったお友達に声をかけ一緒に保育室へ行ってくれる優しい子がいます。道で見つけたきれいな花や景色のことを嬉しそうに教えてくれるお友達がいます。

一つ一つは小さなことに見えますが、子ども達の成長はこんなところにも感じられるものです。子ども達の成長に触れると、嬉しくて心が温かくなります。

今年度最後の月も、お友達と先生と楽しい思い出でいっぱいになるよう過ごしていきたいと思います。



### 保育目標

“もうすぐ一年生、もうすぐ進級”

身についたものをしっかりと確認し

それをさらに高め、確かなものにする。

### 保健だより

インフルエンザ、感染性胃腸炎、そして長期間に渡って新型コロナウイルス感染症の心配が続いています。保護者の皆様のご家庭での健康管理のご協力に心より感謝いたします。

引き続き感染症予防に努め、バランスの取れた食事と適度な運動、規則正しい生活で、風に負けない体作りも心がけたいですね。園でも風邪・ウィルスに負けない体作りに取り組んでまいります。



※マスク着用についての基本方針の変更については、本日別紙で配布のお便りでご確認ください。

### 生活の合い言葉

【後始末】  
使った後 使う前より  
きれいに美しくゴミはなし  
【友情】  
いやなこと 陰口でなく  
言ってあげるのが 友情

## 3月の行事予定

- 9日(木) 防災訓練・非常食を食べてみよう
- 10日(金) 誕生会
- 16日(木) ばら組さよならバイキング
- 20日(月) 諸経費口座振替日
- 21日(火) 春分の日/休園
- 23日(木) お道具箱、午睡布団持ち帰り
- 24日(金) 卒園式、ばら組お別れ会  
※さくら組以下=11:30 降園
- 27日(月) 物品販売(13:00~18:30 まで)  
申込保育~4/4(火)まで



### 令和5年度4月

- 1日(金)~4日(火) 申込保育期間
- 5日(水) 入園式(午前)/11:30 降園  
申込保育/19:00 まで
- 6日(木) 給食開始  
バス運行開始



### 防災訓練・非常食を食べてみよう(9日)

東日本大震災から12年。3.11を前に、防災訓練を行い、その後は、地震などの災害で電気やガスが止まったときに食べる【非常食】をみんなで食べてみます。

### お道具箱等の持ち帰りについて

お道具箱は、3月23日(木)に全園児持ち帰りますので、当日は風呂敷、または袋を持たせてください。

なお、午睡布団を持ち帰り、クリーニング又は乾燥をお願いします。

### 新年度使用物品の販売について

3月27日(月)の13時から18時30分までの間に、物品を販売いたします。代金と引き換えに受け取りの上、それぞれに記名して、4月6日までに持参してください。

### 新年度の入園式について

令和4年度の入園式を4月5日(水)に開催いたします。会場の都合上、新入園児さん中心のお祝いの会にさせていただきます。

### ばら組さよならバイキング(16日)

卒園するばら組さんのお別れパーティーを開き、思い出のバイキング昼食会にしたいと思います。当日はばら組さんの大好きな給食のリクエストメニューになりますよ。お楽しみに



### ◆申込保育について◆

新年度の準備のため、3/25(土)~4/4(火)の期間を申込保育とさせていただきます。出来る限りで結構ですのでご協力をお願いします。

#### 申込保育期間

◎3月25日(土)~4月4日(火)  
保育時間 月~金曜日 19:00 まで  
土曜日 18:45 まで

◎申込保育中はバス運行・給食はありません。

### 子どもへのまなざし

子ども達はいつも好奇心いっぱい活発に動くもの。どうやって楽しく子育てしていこうかなと考える保護者の皆様に子育てのヒントになりそうな言葉を本からご紹介します。

### 子どもの行動は科学者の実験とおなじ

幼児期の後半になると、子どもは急に活動的になります。この時期の子どもはたえず動いています。好奇心のかたまりのようで、雨上がりの日に連れだって歩きますと、水たまりがあっても、よけないで入ったりします。坂道や道端の築山のようなものや、誰かの家の階段があつたりすると、わざわざ道草を食うように、のぼったりくぐつたりします。(略)

私たち大人は土手の向こう側に「なにがあるのかな」と思う子どもの気持ちはわかるつもりでいても、「どうしてそんな無駄な動きをするんだ、一回のぼってみればたかきんじやないか」と思うわけです。(略)しかし、子どもは疲れないのです。そればかりか、斜面をのぼるそのことが楽しいのです。(略) どのように注意しないと、すべてが転がってしまうかもしれない、こうしないとしっかりのぼれない、上りと下りとは、こんなに違うのだということを、子ども達はいろいろ確認しながら、しかも自分の運動機能を確かめながらやっているのです。

(略) 自分のやることを自分で決めて、楽しみながらのびのびとやってみる。危険なことは親や保育者に守られ注意されて、安心してやってみる。こういうことが子ども達には必要なことなのです。

そのときそのときに、好奇心をいっぱいもって、自然など周囲の対象を探索しながら、「感じ」「考え」自分の生命の充足感を体験する習性のようなものは大きくなって急にできるものでは決してないと思います。

ピアジェは「この時期の子ども達がやっている一連のそういう行動は、科学の第一線で未知の分野を研究している科学者がやっている実験的な行為、すなわち、真理の探究をしている科学者の営みとまったくおなじだ」という意味のことをいっているのです。(略)

私たちは、幼い子ども達の、こうしたいはずにしか見えない行動に価値や意義を見いだすことはできないですね。つい「なんといえばやめるの」といって、しかつたりしますが、子どもたちにとっては、なんどもなんどもくりかえしやるところに意味があるのですね。

佐々木正美「子どもへのまなざし」福音館書店、1987、p.150-156